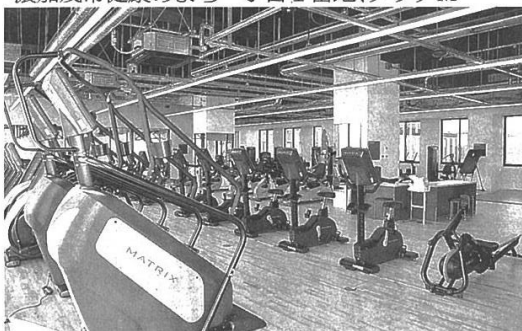


# 美濃加茂に

可児市下恵土で29年にわたり予防医学に基づいたメディカルフィットネスに取り組んできた厚生会の健康増進施設「クラブM」が、美濃加茂市健康のまち一丁目1番地に完成した中部国際医療センターの付属施設「みのかも健康プラザ」に新築移転し、来年1月4日に開所する。

(沢野都)

最新のトレーニングマシンが並ぶジムエリア＝美濃加茂市健康のまち一丁目1番地、クラブM



## 厚生会の医療フィットネス施設

### 可児から健康プラザへ移転

# 「クラブM」

1992年、病気になる体づくりの考え方から健康増進施設の県内第一号として当時の厚生会に認定された。一般会員のほか、医師の処方に基づいて運動療法を実施するメディカルフィットネス会員があり、この場合、施設利用料等が医療費控除の対象となる。

クラブの面積は約1800平方メートル。最新のトレーニングマシン約60台が並ぶジムエリア、5コースの25メートル



ガラスの天井から陽光が差し込むプール＝同

プール、疲れを癒やすシャワー、ヨガなどの有酸素運動を行うスタジオなどがある。

施設長は、糖尿病センター長の高見和久医師が務め、隣接する病院との連携を強化する。個人の健康状態に合わせて最適なトレーニングメニューを作成し、

## アプリで診察待ち短く

### 中部医療センターが運用

社会医療法人の厚生会が運営する新病院・中部国際医療センター（美濃加茂市）は、来年1月4日の外来診察開始に向け、患者向けスマートフォンアプリの運用を開始する。診察待ち時間を好きな場所で過ごすことができ、院内滞在時間が短縮できるなど、通院時のストレス解消が期待される。

アプリは、富士通ジャパ

ン生活習慣病の予防や改善をサポートする。会員は16歳以上が対象。

早川和泉マネジャーは「窓が多く開放感があるのが魅力。周囲の散策路を使ったウォーキングイベントも計画中。一生自分の足で歩ける体づくりを支援したい」と話す。

SUヘルスケアソリューション HOPE Life eMark コンシェルジュ」で県内初導入という。

診察時間が近づいたらスマホにメッセージを届ける「診察状況お知らせ機能」、診察・検査の前日に通知する予約忘れ防止の「アラートリマインド機能」などがある。事前に決済用のクレジットカードを登録しアプリで後払い設定にすれば、「らへん会計（オンライン決済）機能」によって診察後、会計を待たずに帰宅できる。

アプリは、アプリ配信サイト「アップストア」や「Google Play」で無料ダウンロード後、初回のみ同センター総合受付などで発行する個人識別用QRコードを読み取り、アプリと診察券番号をひも付ける。オンライン決済希望者は、クレジットカード情報を入力すれば登録が完了する。

問い合わせは同センター医事部、電話0574（25）2181。（沢野都）